



空店舗を活用した「ほっとサロン」

温泉は古事記、日本書紀、万葉集そして各地の風土記などに見られるように、古くから休養、保養、療養に効能が認められ、それは多くの人々から今もつて支持されている。戦後復興の時代までは長い間「湯治」が主流であったが、高度経済成長の時期を迎えると、道路交通網の整備が進み、高速大量輸送をもって温泉地にも大きな繁栄をもたらした。団体客に対応するため宿泊施設や温泉街の大型化、高層化が始まった。つまり温泉地は

MY TOWN

ホット情報

鳴子町

外に出よう！「どいペクレス」

玉造商工会

湯治場から一泊完結型の観光温泉地へと変貌を遂げた。

やがて、その後景気は成熟期を迎え、消費者も「本物・高級志向」を温泉地にも求めるようになり、旅行の形態は団体旅行から少人数のグループ旅行へ、加えてそれまで温泉地をあまり訪れることなかった若いOL層や女子大生までに客層は変化した。

バブル経済の崩壊で、全国的に宿泊客数が減少し、それは鳴子温泉も例外ではなく、一方で多様化するお客様ニーズに対応し、再びの繁栄を目指す。旧鳴子町商工会は平成十三年五月に商店主やその奥さん、旅館の女将を募って「でっペクラブ」を結成、「一店逸品運動」を展開した。

「でっペ」とは「外に出ようよ」。「一店逸品運動」とは「鳴子でなければできないもの・こと・サービスを生み出す運動」という意味。月に一回、逸品開発とお客様に喜ばれる仕組みづくりを勉強

する「ワークショップ」を開催する。その発表の場が「ほっとフェア」で毎年三月（平成十八年は三月三日から十二日まで）に開催する。

また、空店舗対策事業として鳴子駅前商店街の空店舗を借りて「ほっとサロン」を開設し、鳴子にいらしたお客様をクラブの会員がお茶と菓子

でもてなす。予期せぬもてなしの感激はサロンに何気なく置かれた「落書き帳」に感謝の気持ちがあふれる。

ワークショップのメンバーは他団体、他産業に及び、まさに「でっペ」は自分の店、職業、地区をも飛び出し、鳴子地区を挙げての活動となる勢いである。

わがまち
自慢全国に誇るスポーツ・レクリエーション拠点
グランディ・21

利府町商工会

宮城県総合運動公園（愛称

グランディ・21）は、みやぎの新しいスポーツ・レクリエーション拠点として、平成十二年四月に、利府町に誕生しました。

国内外の各種スポーツ大会

やコンサート等に利用でき、二〇〇一年には「新世紀・みやぎ国体」のメイン会場として、更には、二〇〇二年六月「ワールドカップサッカー」

が開催される等、国内外から数多くの方々（昨年利用者約六十三万人）が利府町を訪れ、休日ともなると多くの家族づれやカップルで賑わい、本町の知名度は大変高くなってき

ております。

商工会で行った住民意識アンケートでは「利府町と聞いて思い浮かべる施設」として、全体の八十五パーセント以上の方が「グランディ・21」と回答しております。

また、商工会では施設を運営管理している県スポーツ振興財団の協力により、イベントやスポーツ大会への地元出店窓口を開設しており、一昨年開催のコンサートでは、当日の一日売上も十七店舗で六百八十万円を超え、利府町をはじめ近隣市町の各宿泊施設が満室になる等、イベントのもたらす経済効果は大きいもの

歴史のうねりの中で時代にそぐわないものを捨て、お客様の望みを先取りし、あるいは創造して行く、すなわち「スクラップアンドビルド」の先に鳴子地区の繁栄があり、地域に喜ばれる商工会の存在意義がそこにある。

があります。

昨年は八月から十一月までで延べ十一日間出店し、合計で二百四十万円の売上実績を上げております。

商工会では今後、「グランディ・21」に訪れた皆様に対するオリジナルの記念グッズ等の開発や、利府の観光資源等について関係団体と連携を図りながら推進していきたいと考えております。



多くの人が訪れる「グランディ・21」